

(趣旨)

第1条 この規定は、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」(平成26年8月26日 文部科学大臣決定)および「学校法人常翔学園学術研究倫理憲章」、「学校法人常翔学園研究者倫理に関するガイドライン」、「大阪工業大学における研究活動に係る不正行為防止に関する規定」に基づき、学校法人常翔学園(以下「学園」という)が設置する大阪工業大学(以下「大学」という)において、研究活動に関わるすべての者(以下「研究者等」という)が、その研究活動の公正性等を説明するために必要となる研究活動の記録の管理、保存等について必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この規定において研究記録とは、研究の計画、過程、結果、考察を示す以下に掲げるもののうち、研究者等が研究活動の公正性等を説明するために必要となるつぎのものをいう。

- イ 資料(実験・観察記録ノート、文書、実験データ、画像など)
- ロ 試料(実験試料、試薬、標本)や装置など
- ハ その他研究の計画、過程、結果、考察を示すもの

(研究記録)

第3条 研究者等は自身の研究活動を行うにあたりその研究記録を、研究者等が研究活動の公正性等を説明するために後日の検証が可能となる状態で、第4条に定める期間、保存しなければならない。

(研究記録の保存期間)

第4条 研究記録の保存期間は、当該研究成果等の発表後、原則5年間とする。ただし、関連する法令、資金提供機関による規則または本学の関係規定等に保存期間の定めのある場合は、それらに従うものとする。

2 前項にかかわらず、特許出願を行う場合または研究分野の特性等、特別な理由がある場合は、合理的な保存期間を別に定めることができる。

3 保存期間が満了する前に研究記録を破棄しなければならない特別な理由があるときは、学長の承認を得て、廃棄することができる。この場合において、廃棄する研究記録の内容、当該特別な理由、廃棄年月日その他必要事項を記載した記録を上長を経て学長に提出しなければならない。

(研究記録の保管場所)

第5条 研究記録は当該研究を行った研究室等において適切に保存するものとする。

(研究記録の大学への提出)

第6条 研究者等は、つぎの場合、大学の求めに応じ、速やかに研究記録を提示または提出しなければならない。

イ 大阪工業大学における研究活動に係る不正行為防止に関する規定に定める研究不正に係る疑義が生じた場合

ロ その他大学が必要と認めた場合

2 大学は、前項において研究記録の提示または提出を受けたときは、当該研究に係る公表前のデータまたは論文等の研究上もしくは技術上の秘密とすべき情報が漏えいすることのないよう十分に配慮しなければならない。

(細則)

第7条 この規定に定めるほか、研究記録に関し必要な事項は、別に定めることができる。

(規定の改廃)

第8条 この規定の改廃は、学長ならびに学部長会議および研究倫理委員会の意見を聴き、理事長が行う。

付 則

この規定は、2015年4月1日から施行する。